



石田 英敬 (ISHIDA Hidetaka)

東京大学大学院情報学環 教授
東京大学大学院総合文化研究科 教授 (兼担)

東京大学文学部卒業、
同大学院人文科学研究科博士課程中退。
パリ第十大学大学院博士課程修了、
人文科学博士。

東京大学大学院情報学環・学環長、東京大学附属図書館副館長など歴任。同大学院総合文化研究科教授・同情報学環教授(兼担) (2012～2017年)。2017年より同大学院情報学環教授・同総合文化研究科教授(兼担)。その間、パリ第7大学、パリ第8大学客員教授、パリ哲学コレージュ・プログラムディレクターなども務める。

専門は、記号学、メディア論。とくに19世紀以後のメディア・テクノロジーの発達と人間文明との関係を研究するメディア記号論の分野で日本を代表する研究者。情報技術を活用した人文学的研究としてテレビ記号論や情報記号論の研究展開を主導してきた。近年は人文知の閉塞状況を批判しメディア時代に応えうる新しい人文学として「新しい〈記号の学〉」を提唱している。

主な編著書に、『大人のためのメディア論講義』(ちくま新書、2016)、『デジタル・スタディーズ』全3巻(『1 メディア哲学』、『2 メディア表象』、『3 メディア年』、東京大学出版会、2015)、『自分と未来の作り方 情報産業社会を生きる』(岩波ジュニア新書 2010)、『現代思想の教科書』(ちくま学芸文庫 2010)、『知のデジタル・シフト』(弘文堂 2006)、『記号の知/メディアの知』(東京大学出版会 2003)、『シリーズ言語態5 社会の言語態』(東京大学出版会 2002)、『シリーズ言語態1 言語態の問い』東京大学出版会 2001)『ミシェル・フーコー 思考集成』全10巻(筑摩書房 1998-2000)、『フーコー・コレクション』全6巻(筑摩書房 2006)など、他多数。また時事的なメディア問題に関しても、新聞、総合誌、テレビなどで多数の発言を行ってきている。